

【見どころ案内】



いるま しばくぶつかん アリット
入間市博物館 ALIT

「お茶」をメインテーマにした博物館です。地元特産の狭山茶をはじめ、お茶の歴史や文化について幅広く学べます。また、入間市の自然や歴史、暮らしや産業に関する資料も豊富です。広い館庭は、ハケの斜面をまたいで上下2段に分かれ、下

の段には茶室や池・雑木林が、上の段にはレストランや芝生の広場があります。のんびり憩いの場としても絶好の場所です。(月曜・休日の翌日・毎月第4火曜日・年末年始は休館です。お問合せ04-2934-7711)

オッパケの坂

「ハケ」とは、川に削られてできた川岸の崖のことです。オッパケの坂があるハケは、今から約2万年前に、青梅から川越方面に流れていた古多摩川によって浸食された崖です。古多摩川が流れた跡を流れる川が現在の不老川です。



いづ もいけいじん じゃ かさねてひらくちやじょうのひ
出雲祝神社、重開茶場碑

奈良時代の創建と伝えられる大変古い神社です。参道にはツバキの古木がうっそうと茂り見事です。本殿の裏に建つ重開茶場碑(市指定文化財)は、狭山茶の復興を記念して天保3年(1832)に建てられたもので、日本茶の歴史、武蔵河越茶から狭山茶にいたる経緯、復興に尽力した人物、茶の効能、茶づくりに対する心構えなどが記されています。

さいたま緑の森博物館

狭山丘陵の雑木林や湿地などの魅力的な自然そのものを野外展示物とした施設です。四季折々の自然の情報は案内所でどうぞ。(お問合せ04-2934-4396)



⑥狭山茶の歴史を訪ねる

【距離】約6.5km 【所要時間】約1時間50分

「狭山茶復興の地」を訪ねて、武蔵野台地から狭山丘陵へと歩くコースです。入間市博物館とさいたま緑の森博物館を結んで、狭山茶の歴史と入間の自然にふれてください。

●コース(※【50】は入間市景観50選です。)

[入間市博物館]【50】→オッパケの坂→二本木神社→寿昌寺→長福寺→不老川→出雲祝神社・重開茶場碑【50】→さいたま緑の森博物館観覧路(西久保たんぼ→雑木林広場→大谷戸湿地→緑の森博物館案内所)【50】→[荻原バス停]

元気な入間 ふれあい茶ん歩道 7つのコース

いろいろな入間市にふれあってください。

- ①「里山をめぐる」
- ②「入間川を歩く」
- ③「湧水をめぐる」
- ④「加治丘陵を楽しむ」
- ⑤「茶畑と丘陵を歩く」
- ⑥「狭山茶の歴史を訪ねる」
- ⑦「武蔵野を歩く」

お願い

- ゴミは捨てないで家に持ち帰りましょう。
- 火の元には十分に注意しましょう。
- コース外の畑や山林に勝手に入らないようにしましょう。
- 山野草を採らないでください。みんなの自然を守りましょう。

交通のご案内



発行 入間市役所農業振興課 2003.03 初版 2010.03 改版

〒358-8511 埼玉県入間市豊岡1-16-1 TEL 04-2964-1111

ホームページアドレス <http://www.city.iruma.saitama.jp/>

モバイルサイト <http://mobile.city.iruma.saitama.jp/>

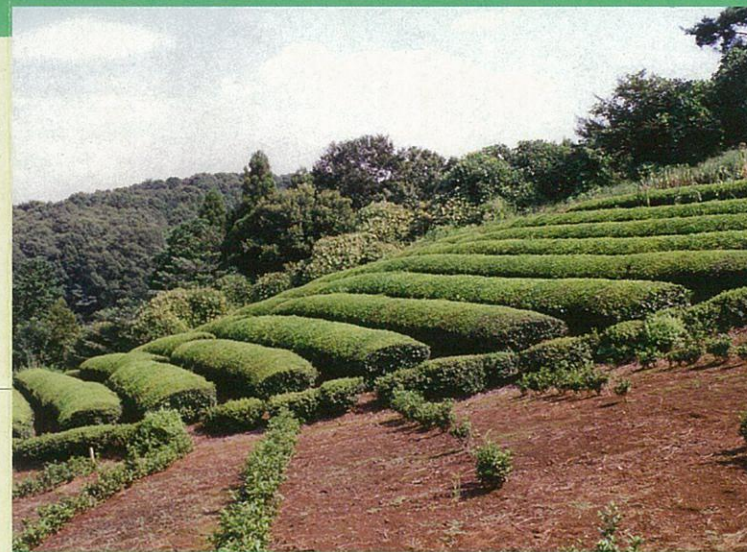
無断転載・複製を禁ず

大豆油インク使用







元気な入間 ふれあい茶ん歩道

⑥狭山茶の歴史を訪ねる



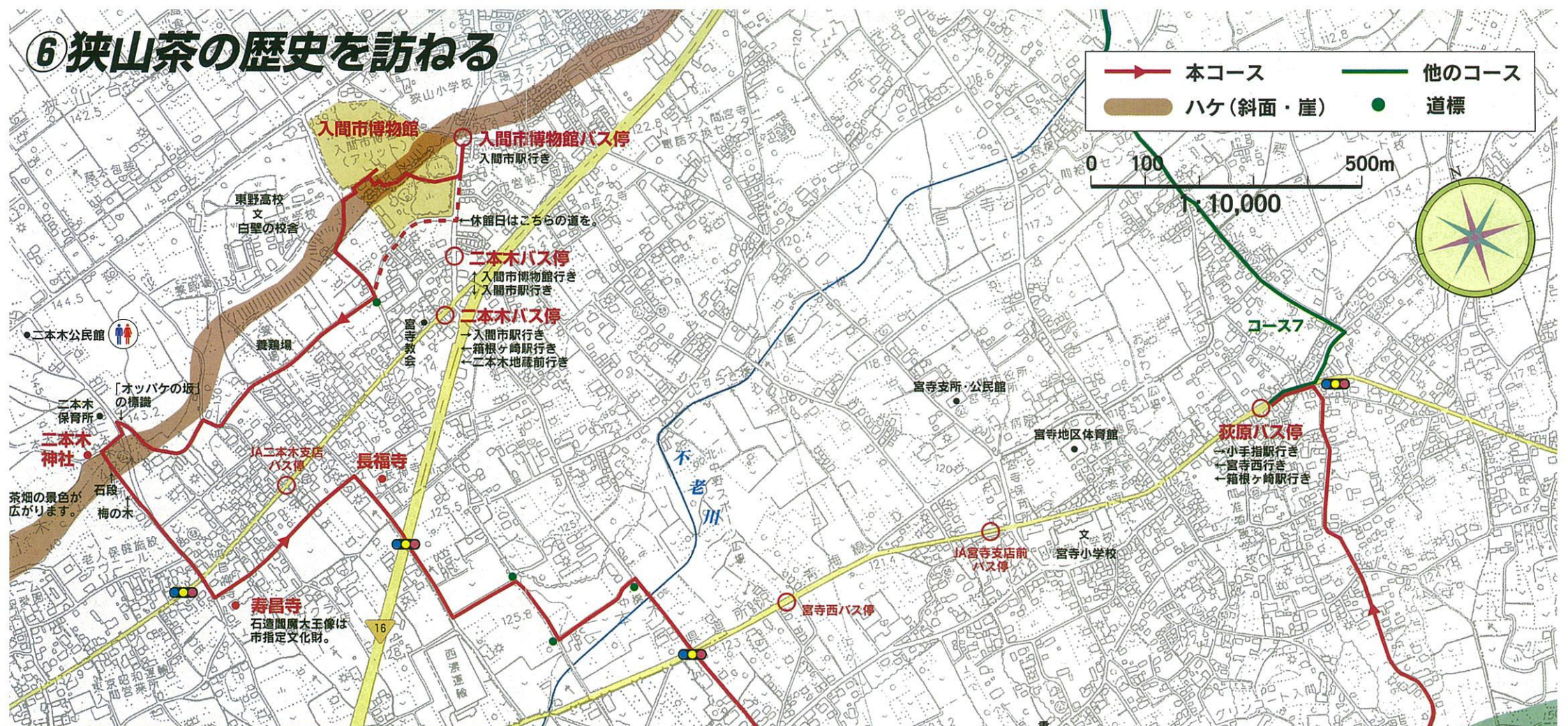
埼玉県入間市

⑥ 狭山茶の歴史を訪ねる

	本コース		他のコース
	ハケ(斜面・崖)		道標

0 100 500m

10,000



ふれあいマメ知識 狭山茶の歴史



吉川温恭

室町時代、この辺りでつくられていた「武蔵河越茶」が、ながびく戦乱で廃れ、長いあいだ衰退していました。江戸時代の後半(文化・文政年間)、この地域の吉川温恭・村野盛政・指田半右衛門らが、当時の最新技術であった宇治製の蒸し製煎茶製法を関東に初めて導入し、茶造りを復興しました。大消費地の江戸に近いこともあり、茶が盛んに作られるようになり、現在の狭山茶産地の基礎を築いたのです。



オオムラサキ



アキアカネ

狭山丘陵のふもとに茶畑が広がります。

狭山丘陵

